



足利労働基準監督署
監督課長

浅田 大輝

平成25年度任官



Q：B監を志望した動機は何ですか？

- 公務員試験の勉強を始める際、大学で学んだ理学・工学系の知識を活かせればと考えたことはありませんか？私もその一人でした。理学・工学系の試験がある職種は少なからず、それらの知識を必要とする仕事があると考え、様々調べた結果、その中に「労働基準監督官」を見つけました。
- 労働基準監督官を調べてみると、国家公務員、厚生労働省、過重労働防止などのキーワードが出てきます。その中で、労働災害防止ということで、例えば製造工場などで起こりうる機械災害や化学物質による障害等を防止する仕事でもあるということがわかり、理系の私でもできる仕事なのではないかと思い志望しました。

Q：これまで学んだ知識を実務で行かせた場面はありますか？

- 金属製品を製造する際、金属製品に付着した油分を取除く作業でイソプロピルアルコール（IPA）を使用していることがあります。IPAは労働基準監督官が所掌する「労働安全衛生法、有機溶剤中毒予防規則」という法令のなかで、使用するためのルールが設けられています。
- 私は大学で化学工学（金属）を専攻していたことから、IPAという化学物質をある程度理解していましたので、法令のルールについてイメージしながらスムーズに覚えることができました。
- そのようなバックグラウンドがしっかりしている知識は、会社に指導を行う際も説得力を生みます。

Q：仕事をしていてB監で良かったと思うことはありますか？

- 安全衛生に関しては、法令に記載されている機械、化学物質、電気、放射線関係等専門用語の意味を理解し運用することや強度や濃度の計算を行う場面も数多く求められます。理系出身者は、その基礎知識を持っているということで大きなアドバンテージとなります。
- 労働条件に関しても、賃金関係や労働時間の計算では、当然数字に強いことが求められます。

理系の学生に伝えたいこと

- 理系出身だと法令の知識がなく任官してから苦労するのでは？という不安があると思いますが、ここだけの話、法学部かつ労働法専攻でもなければA監と差はありません。法令の基礎知識は任官後約3か月にも及ぶ中央研修や監督署での実地研修などでしっかり身に付きます。
- あらゆる業種に対し携わる労働基準監督官の仕事には理学・工学系の知識が必要な場面がたくさんあり、A監より有利だと思います。また、B監の試験は、高校・大学時代に学んだ知識を生かすことができ、A監と比較し合格率が高いです。
- 皆さんの知識を活かして、安全・健康に働ける職場環境の実現のため一緒に働きませんか。